



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 23 〈予防不足〉

タイトル：リスクは常に傍にある！

【事例】

作業員は、現場写真を撮影するためにカメラを持って現場に向かいました。撮影現場は、地階であったため、作業員はカメラを胸ポケットに入れて梯子を降りていました。その途中、胸ポケットが梯子の横棧に触れて持ち上げられ、中に入れていたカメラがポケットから出て落下してしまいました。

【ヒューマンファクターの視点から】

発電所の現場では様々な工具類が使用されます。現場で使用する工具類は、通常、落下や異物混入を防止する為にヒモで固定するなどし、細心の注意が払われています。

今回の場合も、カメラにはストラップが付いており、写真を撮る際には装着し落下しないよう対策しています。しかし、移動中の落下を考慮されておらず、作業員はポケットの中に入れておけば落ちることはないと考えていました。このように、人は実際に使用する場面での対策を考えがちで、その過程までは考えが及びにくいものです。

しかし、例えば、落下のようなリスクは、使用時だけでなく、移動時などでも潜んでいます。そこまで検討するのは面倒だと思ったり、「大丈夫だろう」と考えてしまいがちですが、リスクは残ったままです。一方、リスクに対して万全な対策を考えても、手間が掛かったり、生じるトラブルの影響が少なければ、「ここまでは必要は無い」「面倒だ」と現場では守られないこともあります。

リスク対策を講じる上で大事なことは、極力リスクを減らし、手間が掛からない効果的な対策を考えることです。

作業を計画する際には、どこにリスクが潜んでいるかを予見し、そのリスクを減らすためにどのような方法が適しているかを十分に検討してから作業を実施しましょう。

リスク対策は、守りやすく、効果がある方法を考えましょう。